

緊急開催することとなりました7月9日オープンの「棟方志功 祈りと旅」展に向けて、急ピッチで準備を進めています。この展覧会はすでに全国を巡回中で、当初は福岡県立美術館が最後の巡回館となるはずだったのですが、その後当館に巡回することが決定しました。そういった経緯もあって、福岡県立美術館で、作品の大きさや展示の注意点などを調査してきました。

この展覧会の最大の見所は、なんといっても全長約26mにも及ぶ棟方最大の作品《大世界の柵》です。数字だと実感が湧かないかもしれませんが、例えば、昨年のあいちトリエンナーレ2010で愛知県美術館会場に展示された蔡國強《美人魚》、あの作品が長さ16mでした。そして、この《大世界の柵》に使われた版木は72枚の裏表で、合計なんと144！



▲福岡県立美術館での《大世界の柵》展示の一部分。全貌は…会場でのお楽しみ。。

「版画」と聞くと一般的には両手で持てるサイズを想像しがちですが、棟方の作品には《大世界の柵》以外にも非常に大きなものも多く、驚かされます。「版画」に何か小さいイメージが付きまとう理由の一つにはそれが何枚も刷られる複製品だという事実があるかもしれません。棟方は、このような「版画」にまわりつく「複製」という印象を減じようとして、自らの版画作品を「板画」と呼んでいました。

さて、《大世界の柵》ですが、この規模になると、展示室のなかでも展示できる場所が限られてきます。右隻左隻を分けてL字に展示することもできるのですが、折角ならやはり並べた状態で「大世界」を体感していただくのが一番だと思い、展示室の図面と日々格闘しています。どのように展示されるか、楽しみにしててくださいね。



ところで、この展覧会は「東北復興支援特別企画」という位置づけで開催されます。その支援のひとつとして、愛知県に避難された被災者の方々に、この展覧会を無料でご覧いただくことにしました。具体的には、愛知県被災者支援センターを通じて招待券を各戸にお配りし、ご覧いただく形になります。お配りする招待券やチラシの準備ができましたので、さっそく支援センターに届けてきました。

(K.S.)